

〔中期目標の設定〕

中期目標	達成状況	中期目標の達成状況の結果と分析
<p>【安全・安心な教育の推進】 <u>全市共通目標</u></p> <p>①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に来るのが楽しいですか」の項目について最も肯定的な「当てはまる」と答える児童の割合を60%以上にする。</p> <p>②令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、最も肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】 <u>全市共通目標</u></p> <p>①令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。</p> <p>②令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65.0%以上にする。</p> <p>【学びを支える教育環境の充実】 <u>全市共通目標</u></p> <p>①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。</p> <p>②「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2（1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を、6か月までとする。）を満たす教員の割合を80%以上とする。</p>	<p>B</p>	<p>① 3年生51%、4年生61.2%、5年生48.7%、6年生56.5% 全体では、54.4%と、目標を下回っている。</p> <p>② 3年生76.9%、4年生71.8%、5年生76.9%、6年生74.8%と、全体では、75.1%と、目標を下回っている。</p> <p>① 3年生33.7%、4年生36.9%、5年生34.2%、6年生48.9%と、全体で38.4%と目標を下回っている。</p> <p>② 全体は71.3%でした。学年別では、1年生82%、2年生78%、3年生77%、4年生70%、5年生66%、6年生、56%でした。</p> <p>① 10月52.4%、11月61.1%、12月100%と10月以降は、目標を上回ることができている。</p> <p>② 1月現在で87.5%(40名中、35名)と上回ることができている。</p>

安全・安心な教育の推進（年度目標の設定）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	年度目標の達成状況の結果と分析
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を85.8%以上にする。</u></p> <p>② 令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、<u>肯定的に回答をする児童の割合を93.4%以上にする。</u></p>	B	<p>① 3年生87.5%、4年生86.4%、5年生82.9%、6年生91.6%で、全体は87.1%と上回っている。</p> <p>② 3年生93.2%、4年生90.2%、5年生91.4%、6年生96.2%で、全体は93.2%と下回っている。</p>

【安全・安心な教育の推進】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況	年度目標の達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同学年での交流を通して、児童が楽しめる活動を充実させるとともに、互いに尊重できる仲間づくりをする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の校内調査における「学校に来るのが楽しいですか」の項目について<u>最も肯定的な「当てはまる」と答える児童の割合を63.3%より増加させる。</u> 	B	<p>校内調査の全体の結果は63.1%でした。学年別では、1年生84%、2年生64%、3年生56%、4年生55%、5年生54%、6年生63%でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1度は各クラスの企画係が計画して、学年集会を実施し、他クラスの児童とも楽しく関わる姿も見られた。 学年集会を通して、友好関係が広がり、学校生活を楽しいと思えるようになった児童が増えたと考察する。 学年集会等を開き、4クラスや2クラスで交流できるような遊びを企画することで、他のクラスの児童とのかわりも増やすことができた。ただ、2学期は、行事が多く、学年集会の時間をとることが難しかったので、行事がある中での活動のあり方も考える必要がある。 学年集会やおめでとう集会の企画については、各学級で出した案をもとに、代表児童が話し合い内容を決めていくようにし、主体的に活動に取り組み、その楽しさを味わえるようにした。 中学年（3、4年生）くらいだと、学級のお楽しみ会から企画することを通して、高学年につなげていく。
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童どうしが助け合ったり、支え合ったりできるような仲間づくりを目指して、話し合い活動を充実させる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級活動の時間に、学級のみんなで話し合う活動を<u>月に1回以上行う。</u> 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学活の時間に係の振り返りや学校行事について意見を出す場を設けた。 三学期にはクラス代表係を作ったので、児童主体で話す機会も増やしていきたい。 簡単な選択肢を提示して担当児童の意見を班の友達に伝えることができた。 学び合いの形式を取り入れてから、学級での話し合い活動の際にも、特定の児童が発言して終わりという様子はなく、グループで意見を交流しながら全体で考えをまとめていくという流れが自然と行うことができ、学び合いの良さが、話し合う活動にもつながっていたと感じる。 話し合う議題は、なかなか集まらず、児童主体の議題で話し合うことは難しかった。 みんなの意見を吸い上げて行事につなげていくシステムを作る。

次年度への改善点

- ① 一人ひとりに役割があるようなシステムづくり（係活動、学級内での一人一役活動など）
- ① 学習や遊びに熱心に取り組むことによる充実感や、仲間と過ごす心地よさからくる楽しさというものを感じていけるような学級づくりや学年・学校づくり、そして個の児童に対する声掛けなどが必要かと思う。
- ② 学級会のやり方や司会等のマニュアルなど、研究部が出しているものなどで参考になるものがあれば、学級保管をして活用できるようにしているといいかと思う。（他の学校では、学級会ファイルがひきつがれていることもよくあった。）

未来を切り拓く学力・体力の向上（年度目標の設定）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	年度目標の達成状況の結果と分析
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40.1%以上にする。</u></p> <p>② 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、<u>最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を64.0%以上にする。</u></p>	B	<p>① 3年生33.7%、4年生36.9%、5年生34.2%、6年生48.9%と、全体で38.4%と目標を下回っている。</p> <p>② 全体は67.5%でした。学年別では、3年生70.2%、4年生68.0%、5年生66.7%、6年生64.9%でした。</p>

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況	年度目標の達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習において、ペアやグループで聴き合う活動をどの授業でも取り入れることで、「ケアの関係」をつくる。 ジャンプの課題を授業に取り入れることで、児童が夢中になって学習に取り組めるようにする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の校内調査における「ペアやグループで分からないところはきいたりきかれたりして、学び合うことができていますか。」の項目について、<u>最も肯定的に回答する児童の割合を前年度（55.2%）以上にする。</u> 学年でジャンプの課題または物語文の教材文との対話の形式の授業を月3回以上取り入れる。 	B	<p>校内調査の結果で、全体は51.9%でした。学年別では、1年生79%、2年生47%、3年生43%、4年生40%、5年生45%、6年生54%でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標の数値より下回ったが、1学期の49.3%よりも上がっている。 ジャンプの課題を出す回数は教科によって差があったが、児童が学び合えるような視点をもって教材研究することができた。一斉授業では集中しづらい児童や特性のある児童も意欲的に取り組むことが多くなった。一人では答えを導き出すのが難しい課題を設定することで、友だちと聴き合って思考を巡らせることができていた。 座席をコの字型・グループ型にし、教具などもペアで活用することにより、ペアやグループで考えを聴き合えるような環境の設定をしたことで、自然に聴き合う姿がたくさん見られるようになった。また、「わからない」と言うことがあるときも、ペアや近くの児童に自分から聞いて問題を解いていこうとする姿がよく見られるようになった。 国語科、算数科だけでなく、社会科、理科など、研究の教科の幅が広がった。 特別支援学級の抽出学習をしている児童については、動画や絵カードなどを使い、それぞれの児童の発達段階に応じた教材を使うことによって、友達と一緒に夢中になれる学習に取り組むことができた。 ジャンプの課題については、算数専科の先生に任せきりになっており、ジャンプ課題に向かう児童の実態を把握していないところにも課題が残る。
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一年間を通し、遊びながら体を動かすことができる環境を整える。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、<u>最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度（72%）以上にする。</u> 	B	<p>校内調査の結果で、全体は71.3%でした。学年別では、1年生82%、2年生78%、3年生77%、4年生70%、5年生66%、6年生56%でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昼休みに運動場・体育館・ピロティを学年を割り振り、休み時間を有効に活用できるようにした。 運動委員会の強調週間「ベスト更新週間」「元気ジャンプ週間」「かけあし週間」を学期に1回実施した。また、みんな遊びや学年集会など、体を動かせる機会を多く設定した。 体育の中で対戦表を作成したり、音楽を活用したりして楽しく取り組める場を工夫した。 新しくストラックアウトやジャンピングボードを増やし、環境を整備した。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・高学年になるほど、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が減少している。・教室遊びの方が好きだと感じている児童もあり、固定化がみられる。 |
|--|---|

次年度への改善点

- ① 全体共有のあり方や持たせ方の工夫を今後もしていく必要がある。
- ① 高学年は教科分担をしているため、実践できる教科が限定される。他の教科でどのように実践しているか情報を共有する。また、教科担任をしているそれぞれの内容を把握することに検討が必要。
- ① 探究をするための、日々の教材研究のポイントがとても難しいと改めて感じる教職員も多い。ケアの関係を作るために何が大事なのか、ジャンプの課題を出す前にどのような積み上げが日々いるのか、全体で考える場を設定する。
- ② 体育の学習の中で、運動量を確保し、積極的に体を動かせる場を設定し体力の向上を目指す。
- ② 休み時間を活用し、参加しやすく楽しいみんな遊びを工夫するなど外で元気に遊べる機会を増やしていく。

学びを支える教育環境の充実（年度目標の設定）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	年度目標の達成状況の結果と分析
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2（1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を、6か月までとする。）を満たす教員の割合を85.8%以上とする。</p>	B	<p>① 10月 52.4%、11月 61.1%、12月100%と10月以降は、目標を上回ることができている。</p> <p>② 1月末現在、87.5%(40名中35名)の教員が基準2を満たしており達成する見通し</p>

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況	年度目標の達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育アシスタントを活用するなど、協働学習支援ツールを用いた学習に必要な研修を随時行い、実践する。(高学年) 基本的な操作(電源の入れ方、カメラの使い方など)を身につけさせたり、心の天気やnavimaに取り組ませたりする。(低学年) <p>指標 協働学習支援ツールを用いた学習を、<u>学年団で計画しながら学期に3回以上実施する。(高学年)</u> <u>毎日学習者用端末に触れ、端末操作の基本的技術を身につける。(低学年)</u></p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 低学年は、電源を入れる・切る、心の天気、デジタルドリル、カメラの操作と活用(2年生)等、活用はできていた。新しい端末の配備が2学期以降だったので、年度初めから児童の手元があれば、もう少しできることも増えていたのではないかと。 デジタルドリルは便利だが、児童の習熟度を知ることが難しい。 低学年で、発表ノートを活用した実践を行った。 中学年では、ライブ提出箱を活用した実践を行った。お互いにのぞき見できるシステムで、参考にしながら学習を進めることができていた。 連絡帳をタブレットで確認するようにしている学年・学級も増えてきた。 タイピングゲームとしては難なくこなすことができているが、ローマ字を覚えていないので、自分で考えた文章を打ち込むことはできない児童もいる。 高学年で共同編集機能を取り入れて実践を行うが、ルールを守らずにトラブルに発展してしまうケースも多々あり、積極的に活用できないこともある。 本来はもっと活用できる便利なアプリがあるはずなのに(プログラミングなど)なかなか制限等で使うことができないこともある。
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月に1回「ゆとりの日」を設定する。毎週水曜日は最終退勤時刻を早められるようにする。 <p>指標 ・毎月の「ゆとりの日」の退勤時刻を17時半に設定し、実行する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回「ゆとりの日」を設定している。ゆとりの日に17時30分時点で残っている教職員数は4月7名、5月0名、6月0名、7月4名、8月23名、9月3名、10月16名、11月11人、12月18人、1月11人、2月0人となっており、十分な成果には至らなかった。 毎週水曜日には退勤時間を18時としている。他の曜日より早い退勤を意識できている。

次年度への改善点

- ① 各学年のハードルを下げてはどうか？→1. 2年：慣れる・触れる（電源、カメラ、タッチ操作など） 3. 4年：調べる・活用する（タイピング、検索、パワーポイントに簡単にまとめるなど） 5. 6年：まとめる・発信する（タイピング、パワーポイント、コメントし合い、共同編集少々など）
- ① もし年間計画の中で厳しければ、高学年であっても資料の作成・表現でとどまってもよいのではないか。（児童の実態）
- ① デジタルとアナログのバランスを考える必要性。使うことを目的にするのではなく、各教科の単元目標で何が大切かが最優先。端末は目標達成のための手段になるようにする。
- ② 時間割の見直し等により、全体的に時間外勤務の時間は減っている。次年度も教員が計画的に仕事ができるように、セット時刻が遅い日を含め、最終退勤時刻を周知する。